

株式会社さくら鍍金 新本社・工場建設について

株式会社さくら鍍金は、1947年8月に創業して以来、こうして今日まで60年に渡り鍍金業を専門的に行って参りました。中でも亜鉛鍍金の分野においては、全国有数の設備と規模を誇り、他社よりも一歩先出た技術革新を進め、品質、価格、納期などあらゆるサービス面でお得意先各社様に高い評価を頂いてまいりました。最近では、本年度2007年2月にISO14001の認証取得をし、更なる企業満足度向上に努めてまいりました。

この度、更なる技術開発、及び顧客満足度の向上を目指し、現恵比須工場を解体、撤去し、拡張した新本社・工場を建設し、従来の恵比須工場と綱島工場で生産してきた鍍金部門を統合し、規模を拡大して生産を行う事とし、神奈川県インベスト神奈川の施設整備等助成制度に対して事業計画の認定申請を致しました。

最先端の鍍金設備を盛り込んだ機械設備を用いて鍍金の生産を行うだけでなく、新たに熱処理ラインを新設し、熱処理と鍍金という表面処理に欠かせない処理を社内一貫生産で行えるように構築します。これにより、製造方法の見直しを行い、研究開発を進めながら更なる自動化を進め、生産能力の増強と技術力の向上を図り、競合メーカーとの差別化、優位性を目指します。

また、新技術の研究開発強化に取り組み、特に次世代のハイブリッドカーの分野で使用されることになる新たな表面処理の研究開発、そして表面処理の分野にとらわれず、廃棄物の削減、及び再利用を目指したエコロジー開発、バイオ分野への研究などに挑戦を続けながら未来に発展していきます。

これらにより、短納期、高品質、低コストを実現するだけでなく、環境面においてもより一層貢献度の高い企業を目指し、地域の発展に広く貢献していきます。

株式会社さくら鍍金 代表取締役

真木 洋平

新本社・工場の概要

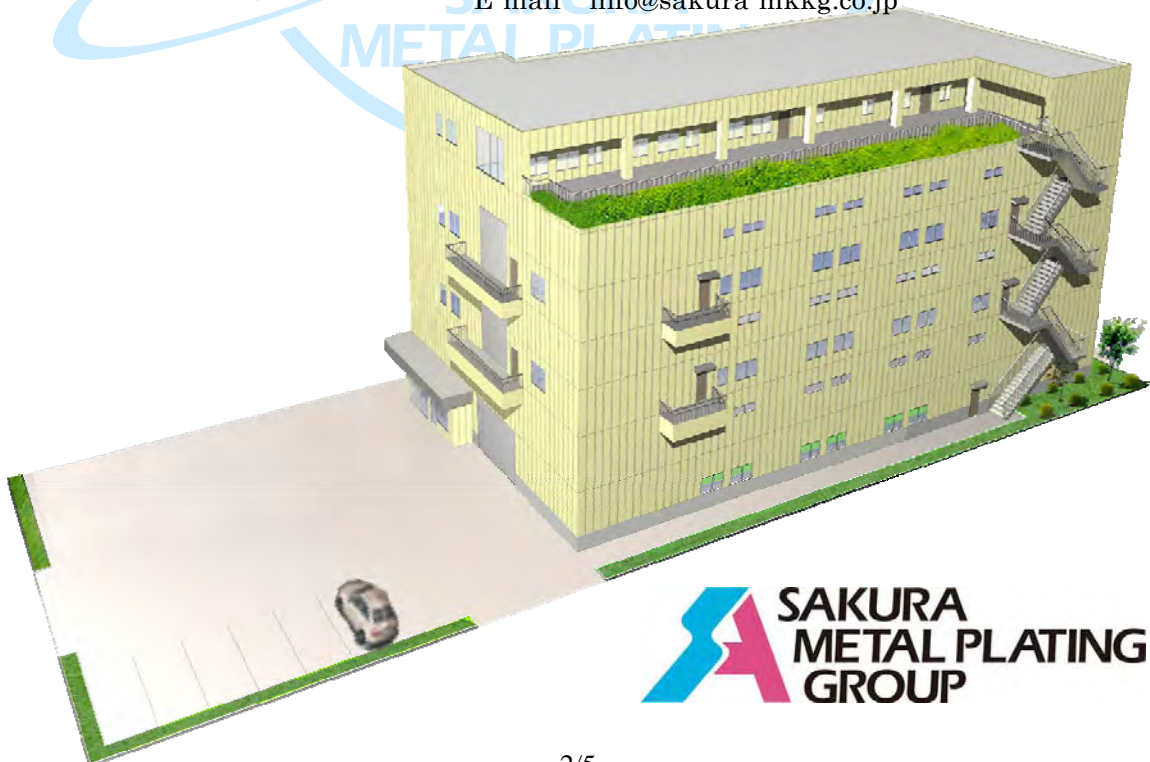
立地場所・神奈川県横浜市神奈川区恵比須町 7-9
敷地面積・2451.54 m²
延床面積・4898.62 m²
事業内容・表面処理加工業
従業員数・80 名（事業開始時）
総投資額・24 億 2000 万円
事業開始・2009 年 2 月

会社概要

社名・株式会社 さくら鍍金
代表者・真木 要
操業開始・1947 年 8 月
事業内容・電気めっき業
資本金・1000 万円
従業員数・82 名

問い合わせ先

株式会社 さくら鍍金
取締役 真木 洋平
〒221-0024 神奈川県横浜市神奈川区恵比須町 7-9
TEL 045-453-7121(代) FAX 045-453-7124
E-mail info@sakura-mkkg.co.jp



新工場表面処理の紹介

「環境と人間の未来の創造」

亜鉛メッキを主とした自動車部品・弱電部品・建築鋼材などのメッキを行っており、金属を覆うメッキで現代の物資文化を支えております。そして、これからもさくら鍍金はメッキを通じ環境と人間の未来を創造していきたいと考えております。

製造予定品目

亜鉛メッキ(吊し・回転)三価クロメート



- 多種多様な工業製品に使用されているメッキの代表格。有害な重金属である6価クロムを含有せず、環境問題に対応する新しいメッキ
- ネジ類から大型プレス部品まで大小様々な製品に対応する

熱処理・亜鉛メッキ回転・三価クロメート・ペーキング



- 主に自動車関係ネジ部品
- 鉄鋼材料を適切な温度に加熱し冷却速度を変えることによって、鋼の性質を改善し、目的にあった鋼材にする。
- 熱処理からペーキングまでの表面処理工程を一貫して行うことで、リードタイムの圧縮及び工程間の維持管理の一元化を目指す。

無電解ニッケル



- 電気を使用せず、化学反応のみでつけるメッキ
- 主に、パイプ上の製品・シリンダー・ピストン・金型などに使用
- 被膜の均一性に富んでいるため複雑な形状や寸法制度を必要とする部品に適している

亜鉛・鉄合金三価クロメート



- 耐食性に優れたメッキ
- 有害な重金属である6価クロムを含有せず環境問題に対応する
- 高い防食性が必要とされる、自動車の重要保安部品などに使用される

YC コート



- 有害な重金属を含まないにもかかわらず優れた耐食性能を有す新しい表面処理
- アルコール系ノンクロム亜鉛・アルミ複合コーティング処理
- 船舶部品などに使用されているが、幅広い分野において使用される見込み。

アルマイト処理



- アルミニウムの耐食性や耐摩耗性の弱点を向上させ、様々な着色をして装飾することを目的とした表面処理
- 昨今のアルミニウムの需要増大に呼応してアルマイトの需要も拡大している
- アルミサッシなどアルミ工業製品全般に使用される

